

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016/03/19

日本語・日本文化専攻長 殿
To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター・准教授
氏名 Name	蔦 清行
専門分野 Academic Field	日本文献学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	日本古典の言語についての研究
<p>本年度は以下 1～4 の研究テーマに取り組み、各項目に記述する研究成果を発表した。</p> <p>1. 係り結びについての文法的研究 論文「連体形結びの役割」『国語国文』第八十四巻第四号 ※従来から研究を続けているもので、カとコソの係り結びにおいて、結びに連体形（上代語において、形容詞の結びの場合）が現れる理由を明らかにしたもの。</p> <p>2. 抄物についての文献学的研究 研究発表『『黄氏口義』そのものが語る『黄氏口義』の成書過程』（第百十二回訓点語学会研究発表会） 論文「両足院所蔵『黄氏口義』の構成と成立について」『訓点語と訓点資料』第百三十五輯 ※これも従来から研究を続けているもので、研究発表・論文ともに『黄氏口義』内部に現れる引用書名や人名を手がかりに、その編纂過程について新たな指摘を行ったもの。『黄氏口義』については、これらの業績の他にも、京都大学を中心に開かれている研究会で継続的に研究発表を行っている。</p> <p>3. 『毘沙門堂本古今集註』の文献学的研究 研究発表『『毘沙門堂本古今集註』声点の文献学的検討』（国文学研究資料館特定研究「中世古今集注積書の総合的研究」第三回研究会） ※昨年度から継続的に行われている研究会で発表した。『毘沙門堂本古今集註』に付されているアクセントを示す声点について、その正確さの程度を明らかにするとともに、どのような個所に付されているかを資料全体にわたって調査した基礎的な研究。またそれに基づいて声点の付される理由・目的について簡単な考察を行った。平成二十八年度にはこれに基づく論文を執筆する予定。</p> <p>4. 『蒙求和歌』の文献学的研究 論文『『蒙求和歌』の伝本と文体』『日本語・日本文化』第四十三号 ※従来から研究を続けているもので、科研費の最終年度に当たる。『蒙求和歌』は主な二系統の伝本間の先後関係が問題とされることが多いが、本研究は言語的側面、特に文体面における相違を明らかにし、それに基づいて先後関係についての従来の説よりも確実性の高い議論を行えた。</p>	